

2キャンパス導入要望書の提出

久賀高校同窓会は、今年五月六日、柳居県議及び県教委教育長に、周防大島高校久賀校舎のあり方に関する要望書を提出した。(要望書の要旨は) 高校再編計画は、少子化等の理由から単独での維持は困難と思われる一定の理解はしている。

この場合の新校舎の位置は、久賀の地が最適と考えられるが、現実的な解決策としては安下庄地域の人々の思いも勘案しなければなりません。

同様な再編統合で、長門市内(大津・日置農業・水産)三高校(新校名:大津緑洋高校)は、現在ある校地や施設を活用し、学校行事や部活動は合同で行う(二キャンパス)方式を採用したと報道されました。

周防大島高校においても、久賀校舎に(普通科一クラス+福祉科一クラス)安下庄校舎(普通科二クラス)の二校舎制を採用してほしいというのが、要望の趣旨であり、島から公立高校を無くさない最善の方策と考えられます。周防大島高校の定員百四十名を100%にするためには、郡外から八十名以上入学しなければならぬ計算になります。

ところが現状は、旧橘・旧東和地区限定の高校と見なされ、郡内外から敬遠され、普通科は毎年、極端な定員割れを起こしています。

しかし、二キャンパス方式を採用すれば、現在の周防大島高校への進学率が低い久賀・大島地区の大幅なアップが見込まれ、郡外からも、利便性や保護者の経済的負担の軽減から、四クラス確保はできると確信しています。同窓会は臨時役員会を開催し、二キャンパス採用を県教委等に働きかける議案を満場一致で採択し、提出に至りました。

要望書の回答：県教委 中村教育調整監

◎ 周防大島高校久賀校舎・安下庄校舎について、設置場所については、当面、普通科は安下庄校舎、福祉科は久賀校舎を活用し、将来は、安下庄へ統合する方向性である。しかし、まだ決定ではなく入学状況や諸般の事情を考え、地域の意見を聞きながら決定していく。

一、要望書についての回答はいつ出せるかは返答できない。

二、周防大島高校のあり方だけの検討はできないが、全ての高校について検討する(高校再編等策定に伴う)会議等の参考資料とさせてもらう。

三、周防大島高校のあり方については、今頂いた要望書、意見を含め説明することにする。

(回答はいずれも口頭による)

● 柳居副議長(県議)の回答はない

我々の誇りである 周防大島高校公式野球部(旧久賀高野球部)や福祉科生徒の援助後援をするため、1口千円以上の募金活動を展開中です。引き続きのご支援をお願い申し上げます。



久賀高校同窓会及び福祉科を支援する会は、福祉科にスポットをあてたドキュメンタリー映画「福祉の星たち」のDVDを、山口県内すべての中学校に寄贈するため周防大島高校光田校長にDVD一六二本、周防大島町内の小学校等にも寄贈するため、二十本を三谷周防大島町教育委員長に贈呈しました。この施策に対する経費は、全国の同窓生や地域の皆様の浄財で実現したのですが、詳細について多くの新聞社が取り上げられたことから「これから福祉を目指す若い人たちに夢と希望を与える作品である。」等、同窓会や福祉を支援する会に、多くの反響(感謝や問い合わせ)が寄せられています。